福井英一郎 他 編

日本・世界の気候図

東京堂出版，1985年7月刊，四六倍判，160頁，4,800円

最近，異常気象に対して社会的関心が高まるにつれて，気象・気候資料がますます利用されるようになってきている．特に気候状態を一目で把握することの出来る気候図の重要性は一段と増してきている．

日本に関する気候図としては，気象庁から「日本気候図第1集」(1971)・「同 第2集」(1972)・「同 1980年版」(1984) が刊行されており，一方世界の気候図に関しては，Elsevier 社から World Survey of Climatology (全15巻) が出版されている．しかし，これらはいずれも大部で，一般の人々が手元に置いて手軽に利用するという訳にはいかない．

本書は多岐にわたる気候図を手際よく配列して，教育・研究・実務のいずれの目的にも手軽に利用できるようになっている．本書の特徴は序言で編者等が述べているように，古典気候学的な気候要素の平均値の図ばかりでなく，毎日の気圧型や天気図の積み重ねとしての気候学（近代気候学）の立場に立った図も多く取り入れられていることである．さらに各図の配列にも工夫が凝らされており，項目ごとに図がまとめられている．以下にその項目を示すと，日射と気温・気圧分布と風・降水と水収支・気候災害・季節区分と気候区分（世界の気候では気候指数と気候区分）・応用参考図である．

これまでの気候図は気温・降水の月平均値を中心に，これに気圧・積雪などを加え，さらに台風・天気などの統計が加えられていた．しかし，本書ではこれらの図以外に，従来は余り掲載されていなかった風に関する統計も多数示されており，突風係数の分布・局地風の名称・地上風の流線と強風域なども載せられている．また気象災害に関連して，台風による家屋全壊率の分布・冷害率の分布・大雨注意報警報の発令基準値の分布など，実務にも有効な図も多数掲載されている．また気候区分などの図はカラーで示されており，大変分かりやすくなっている．巻末には各々の図についての解説がなされており，各図の出典や参考文献が記載されているのも親切である．

これまで述べたように，本書は教育・研究・実務に大変便利であるが，例えば国家公務員寒冷地手当支給地域区分・食品別購入金額数量の月別変化・風船爆弾の推定航跡・救命筏の飲料水確保率の分布など，見ているだけでも楽しい図もいくつも載せられており，座右に一冊あれば色々な利用法が考えられる．

一枚の気候図を作成するためにも過去の長い年月にわたる僻地での観測の積み重ねが必要である．このような気候図を見るといつも感じることであるが，気象事業における観測の重要性がますます痛感される．

本書には日本と世界の一般的な気候図だけでなく，応用的な図も多く載せられている．そのいくつかをあげてみると，日本に関しては水収支，台風の経路や発生に関する統計図，大雨警報の発令基準，再現期間50年の日降水量，気候区分，生物季節，不快指数，二酸化イオウの分布，水温分布，国家公務員寒冷地手当支給地域区分，古気候など，世界についても，一般気候図だけではなく，日射量，熱帯低気圧に関する統計図，水収支，トルネード，救命筏の飲料水確保，植物帯と海流など，実にいろいろの種類の図が盛り沢山に載せられている．編集者たちの意欲が感じられる．

大変役に立つ地図集であり，書棚に1冊いれておく価値のある本であるが，いくつか註文がないわけではない．たとえば気圧分布など1月と8月の分だけしかのせられていないが，少なくとも春・秋の分もほしい．また，1月と8月をとったのは，代表的という意味であろうが，ちょっと不自然である．また，高層の気象に関するもの，たとえば500 mb の気候図がないのは淋しい．気候学者たちが編集をしたので，航空，気象の理解というところまで考えなかったのであろうか．また，参考図など，面白くはあるが，風船爆弾の推定航跡など，気候図としては，あそびの感があるものもある．また，多くの図は色刷りであり，色彩としては美しいが，実用的には白黒の方がはっきりして，使いやすいようにも思う．

このような註文はあるが，座右においておく価値のある本である．

（高橋浩一郎，藤谷徳之助）